

[09_02]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1468048>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 9 (2), 1976-06-01. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：



センター長就任に際して

田 町 常 夫 *

このたび、前任者高田勝教授のあとをうけて昭和51年4月から九州大学大型計算機センターの仕事をおひきうけすることになりました。何分不馴れ、というより不向きなことでありますので、よろしく皆様の御指導をお願いする次第であります。

当センターは開設以来今年で8年になりますが、その間利用者は年々増加し、現在処理件数で月約19000件(昭和51年2月)となっており、計算機の利用に関する限り、今なお高度成長期にあります。センター当事者としてはその対策が問題であります。今日周囲の情勢がいわば安定成長時代に入ったという時代感覚とのずれがその悩みを一層深刻にしていると云えるかもしれません。

本センターの発足当時は、まず開設にこぎつけるまでがいはらの道であり、初代センター長大野教授の御苦勞は大変なものであったと思います。この生みの苦しみは別としましても、次のセンター長高田教授にひきつがれてからは早くも機械の処理能力不足に追込まれ、高田センター長の御尽力で機器増強によるレンタル経費増がようやく認められて年間2億2080万円となり、機種もFACOM 230-75に変更されました。しかしその後も利用者の増加はつづいており、この対策も焼石に水の感があります。その利用状況は全国7センターのうち東京、京都について3番目であり、より大型機種への更新の必要な時期は予想外に早く到来しております。文部省では一応全国のセンターの計画は一段落したとして、現状からの飛躍的な変更は認めない方針のようですが、この将来計画の推進と、当面の対策として効率アップのための機器増強の二つは前任者高田教授から引継がれた当面の任務と考えております。

なにぶん50数名の職員をかかえた、センターであります。幸い、西日本地区各大学の協力的な御理解をいただいていることは私がかねがね承知している所であり、前任者からもその旨を伝えられております。前二代のセンター長大野教授、高田教授の御功績をたたえとともに、今後いろいろ御期待に沿わぬ点もあるかと存じますが、できるだけ使いやすい便利なセンターであることを心がけとしまして、せいぜい御利用頂けますよう、景川次長、松尾開発部長はじめ職員一同とともに御鞭達をお願いする次第です。利用者各位の御協力を併せてお願い致します。

*大型計算機センター長、工学部教授